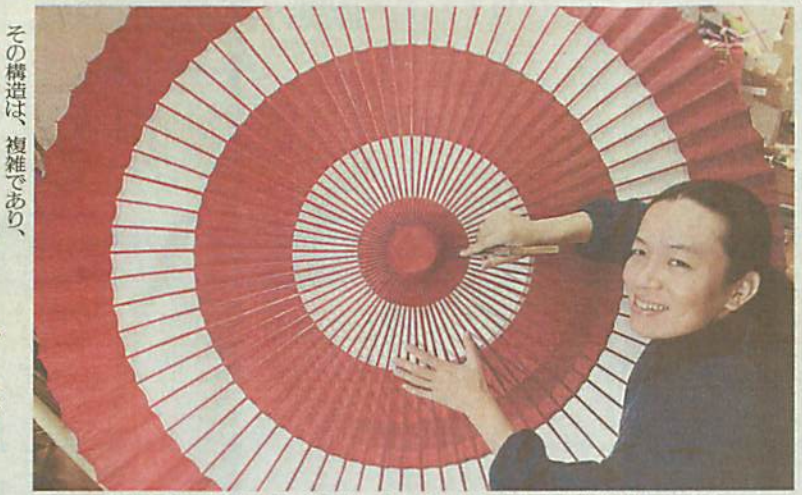
京を紡ぐ [2]

和傘職人

照明器具作りで世界に挑戦 **西堀 耕太郎** さん



野点傘の仕上げをする西堀さん。1本の竹を細く割いた骨は70本以上もある

丹精の技 柔らかな光

【和傘】平安時代、貴族らが竹と和紙で作った傘を使うようになった。その後、開閉できるよう改良され、江戸時代には庶民にも普及。明治以降は洋傘が広まり、今も残る製造元は全国で約10軒、京都では日吉屋のみ。骨の数は30~70本で、男性向けの「番傘」、鮮やかな円模様の「蛇の目傘」、茶会で使う「野点傘」などがある。

らきは、和傘の技がなければ生まれ得なかったものだ。

5代目の社長となった7年前、完成した和傘を天日干ししていて気づいた。「和紙から透ける太陽の光が、こんなに美しいとは」。世界市場に打って出る始まりだった。

◆◆◆

もとは、生まれ故郷、和歌山県新宮市の職員。知人を介して知り合い、11年前に結婚した妻、純子さん(35)の実家が日吉屋だった。

当時、年商わずか100万円。廃業はほぼ既定路線だったが、「継ぎます」と言い切った。国賓が招かれた桂離宮での茶会に、日吉屋の赤い野点傘が使われたことを、古い雑誌の写真を見て知っていた。双方の親から口をそろえて「先細りの和傘のために安定した職をなげうつなんて」と反対されたが、「かけがえのない伝統を残さなくては」と思えてならなかった。

週末には、車で新宮と京都を片道4時間以上かけて往復した。1本の竹を何十本にも細く割き、先端を束ねて和紙を張る——妻の祖父母と母らが企業理念だ。社員は自分、妻を含め7人で、平均年齢は25歳。元大工や京都伝統工芸大学校の卒業生らが集まった。

次の挑戦も始まっている。人気の生活用品店「無印良品」の家電も手がけるデザイナーと、竹の代わりに樹脂と金属を使ったよりモダンな照明器具「MOTO」を完成させ、11月にパリで売り出した。サトウキビが原料のバイオプラスチックを使い、環境に配慮した和傘も開発中だ。中国にショールームを作る計画も進む。

「モノとしての商品に、歴史や文化という物語が加わればブランドになる」。受け継いできた技術で世界の人々の暮らしを照らそうと、試みは続く。

「伝統は革新の連続である」

文・戸田博子
写真・川崎公太

照明器具の「KOTORI」(左上)と「MOTO」。どとらも独創性にあふれている

茂山家若手 趣向の10作

23日中京 5人、演出や他作品出演

大蔵流狂言、茂山千五郎家の若手5人が企画、制作する「HANA(GATA'10 五人作品集『ごにんといろ』」が23日、中京区の先斗町歌舞練場で開催される。今年は5人がそれぞれ2作書き下ろし。昼の部、夜の部5作ずつ上演する。

茂山正邦さん、宗彦さん、茂さん、逸平さん、童司さんの5人で、「能楽堂以外で、より気軽に親しんでほしい」と毎年、趣向を凝らし、これが5回目の公演。

作品は題名通り「5人10色」という。逸平さんは「ケータイの変換ミスで悩む話と、狂言『棒縛り』を現代風コントに」。童司さんは「筋でなくシチュエーションがおかしい作品」。アレンジで勝負するのは茂さんで、「1作は昨年の新作のキャラを再利用、もう1作は兄、正邦の存在感を使って笑わせる」。正邦さんも「劇作家の飯沢匡さんの『裸大名』を改作し、もう一つは現代の芝居と狂言の動きのアンバランス」を見せる。決定稿がどうなるか分からないのが宗彦さんで、「一応、書いたんだけど、これが面白くなくて」と苦笑い。それぞれ自作を演出、互いの作品に出演する。

昼の部午後1時半、夜の部午後5時。A席4000円、B席3000円、学生2000円、昼夜通し7500円。茂山狂言会事務局(075・221・8371)。

昨年の「HANAGATA」の舞台より

ウサギをデザインした花壇

鮮やか花ウサギ 年賀状にどうぞ

宇治市植物公園

新年を前に、宇治市広野町の市植物公園にある立体花壇「花と水のタペストリー」に、色鮮やかな花々で描かれた来年の干支・ウサギがお目見えした。来年2月まで。

幅62㍍、高さ18㍍にわたり、黄色のパンジーや白のビオラ、葉ボタンなどプランター3675基のプランターを配置して、白いウサギと「2011」の文字を描いている。

季節ごとに絵柄を入れ替えており、毎年この時期には干支にちなんだ絵柄が登場。年賀状に使うために写真に収める〈常連客〉もいるなど、好評という。

入園料は高校生以上500円、小中学生は250円。問い合わせは同園(077・39・9387)へ。

おめでとう

大田 華央(かお)です
2008年12月7日生
明るく元気に育ってね
(父母) 亀岡市

井上歩乃花(ほのか)です
2007年12月9日生
3歳おめでとう
(父母) 綾部市

澤田 咲雪(さゆき)です
2008年12月8日生
咲雪2歳おめでとう♥
(従兄二人) 舞鶴市

向井 彩葵(さき)です
2009年12月9日生
パパといっぱい遊ぼう
(父 正雄) 八幡市

読売新聞ご購読申し込み
フリーダイヤルでどうぞ
0120-4343-81
月~土 9:30-17:30
日・祝 10:00-17:00
ザ・デイリーヨミウリは
0120-4343-08へ
インターネットは
アドレスhttp://www.yomiuri.co.jp/eyc14/

昨年、織物販売14%減

京都織物卸商業組合(194社)と京都銀行協会の懇談会なども京都市内で開かれ…

れているが、組合側からは厳しい業況が報告された。

同組合の2009年の実態調査…

少、総販売高が前年比14%減の約1747億円となった。小沢…

…いる」と訴えた。ただ「落ちるところまで落ち、販売面で…

…かれる国民文化祭などを利用して、和装文化を全国にアピールするとした。組合側から…

…の審査が非常に厳しくなっており、販売できないケースが…